

令和三年二月一日発行 第三十一巻第一号 講義第三五六号（毎月一回）日発行  
平成三年九月十八日第三種郵便物認可

# 槐 かい

岡井省二創刊

令和3年2月号



# 大回轉

高橋将夫

火桶抱き火種をつつく近松忌  
愛情も水も氷れば割れるなり  
なりゆきで鬼となりたる追儼かな  
前の夜はよく眠られず神の旅

その年で恋でもなかる近松忌  
熱爛や誰に気兼ねをするでなく

星雲にならんとしたる冬の雲

「俳句界」12月号巻頭3句より

人の世の入り日月の出蕪村の忌

ある時にあこがれた髭漱石忌

年流るグローバルからミクロへと

「俳句四季」12月号より

人生も大回転のスキーヤー

# 青木の实

中 貞子

勾玉の光を胸に 去年今年  
千年の真砂子ま白し小春かな  
山門の烟 美しい年 新たに  
初竈の点火は夫と決めてをる  
石庭の石の威厳や冬ぬくし  
心字池にこころ許せり鴨の群  
冬日差大蛇のごとき土堀なり  
信条を曲げぬ体なり水仙花  
それなりの矜持は吾も榎櫃の実  
奈良町の独楽の店なり軒低し

## 特別作品

朝焚火棟梁の手と弟子の手と  
大根引く穴の大小音符めく  
里芋の親ばなれする力かな  
ふろふきや孫にもほしき嫁御寮  
冬満月稲佐の浜に潮さして  
獅子柚子や湯舟に宇宙ありにける  
枯菊の烟醸すや黄泉の国  
数へ日や亀は甲羅を干してをる  
目標を新たにひとつ青木の实  
ふりそそぐ落花の白く輝けり

# 槐集

高橋将夫選

散りたての銀杏落葉は鯨フライ

守口 三木 亨

枯葉たち夜風に起きてムーンウォーク

来年の手形を切つて紅葉散る

白鳥座地球かすめる翼の影

立冬の人家の明かり人を刺す

裸木となりて生き抜く知恵のあり

大阪 平野 多聞

色変へぬ松のくつろぎ紅葉中

枯れるまで時空の旅人菊人形

降る雨や枝葉は秋を焼付けり

鱗雲禍福を大小並べをる

毒茸を驚かしたる三井の鐘

大阪 藤田美耶子

宇宙船乗りて酌みたや月の酒

白鳥の羽根健やかに愛を舞ふ

実石榴のはじけるごとく自己主張

黄金の神の手遊び黄落期

旅ごころ勾玉色に神の留守

マフラーへやさしき言葉くるみけり

身にしむや一塵もなき石庭に

時雨来る遥かな人が来るやうに

遥かなる枯野の駅に皆笑顔

狐火と初恋遠く近きかな

冬の朝なまくら坊主居座りぬ

冬の蝶ふところ開き待ちしもの

冬の海悪魔ひそんでをりさうな

年越や良きも悪しきも湯気の中

引き際を考へ寄する秋の波

ガード下師走の匂ひ籠もりをる

オリオンを飲み込んでをる水たまり

道沿ひに帽子の地藏冬初め

立冬や時が止まつた様な夜

枚方 阪倉 孝子

岡崎 柴田 靖子

守口 中西 厚子